

チョウセンハマグリ

(鹿島灘はまぐり)



生態的特徴等

【生態】外洋性で、鹿島灘以南の潮間帯下部から水深 10 m までの砂底に生息する。産卵期は夏季で、約 2 週間の浮遊期を経て海底に着底する。2 歳頃までは汀線付近に分布し、その後は成長に伴って水深 2~6 m 付近へ移動する。寿命は 25 歳以上になる。満 4 歳には殻長 70 mm に達し、漁獲加入する。

【漁法と盛漁期】

茨城県では、大洗町、鹿島灘、はさきの 3 漁協により貝けた網で周年漁獲される。

【利用】

酒蒸しや潮汁の他、煮ハマグリ（寿司）などで食される。コハク酸やグルタミン酸、グリシンなどのうまみ成分が豊富に含まれる。旬の魚（春）、プライドフィッシュ（春）に選定されている。

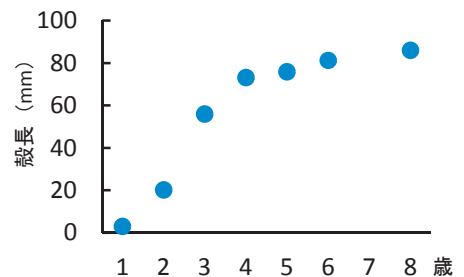


図1 チョウセンハマグリの成長

漁獲水準は低位だが、平成 26 年生まれが順調に加入

(漁獲量) 漁獲量は S60 年代から H20 年頃までは 500~1,000 ト前後で推移したが、近年は 100 ト前後に止まっていた。資源量の多い H26 年生まれが成長し漁獲され始めたことで、H29 は 161 トと大きく増加したが、過去と比較すると依然少ない (図 2)。

(加入量) 資源は卓越年級群の発生によって維持される。H5 年級生まれを最後に広域的かつ大量の資源発生が途絶えていたが、H26 年生まれの稚貝が広域的に確認され、成長したものが H29 年から漁獲加入している。

(水準と動向) 水準は、漁獲量の推移から「低位」、動向は、直近 5 年間の CPUE の傾向から「増加」とした。

水準



動向

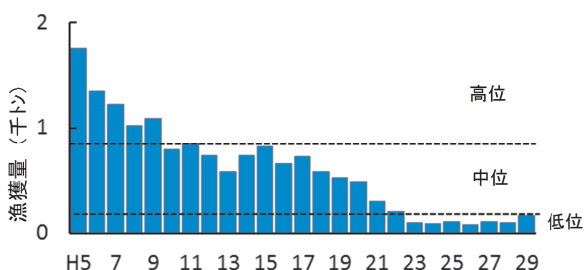


図2 チョウセンハマグリ漁獲量
(農統 (~H18), 水試聞き取り (H19~), 属地)

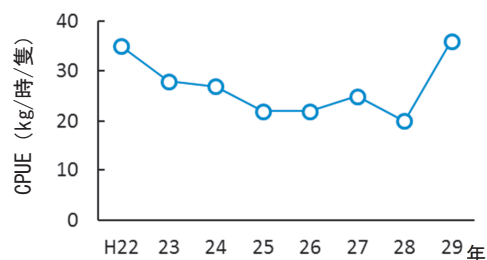


図3 チョウセンハマグリの CPUE (貝けた網)

【全国の漁獲動向】

・千葉県九十九里浜（九十九里地はまぐり）、島根県益田（鴨島はまぐり）で漁獲される。千葉県九十九里浜では、H23 年以降漁獲量が急増している。